08









Construction Steel Work
構造物鉄工

あらゆる技術と知識を駆使して多彩な構造物を作り出す

鉄を切断したり、穴をあけたり、曲げたり、接合させたりーー 構造物鉄工は、金属を思い通りの形に仕上げていく職人の仕事です。手がけるのは、建物や橋、機械設備など、私たちの暮らしを支える大切なものから、モニュメントやアート作品のような芸術作品まで、身の回りにたくさんある、誰もが一度は見たり触れたりしたことのあるものばかりです。製作する構造物には、0.1mm単位の精密さが求められます。切断面の美しさ、溶接の仕上がり、スライド部分のなめらかさなど、細かいところまで丁寧に仕上げつつ、かつ高い強度を保つことも求められる、万能な技術と技能が必要です。



＜2025年大会 競技課題＞

競技職種と生活との関わり

構造物鉄工は、鉄や鋼（はがね）を使って、ビルや橋、鉄塔などの大きな構造物を造る仕事です。ただ鉄を切ったりくっつけたりするだけではなく、設計に合わせて形を整え、強くて安全なものを造り上げる技術が必要です。たとえば、風力発電のタワーや高層ビル、川の水門など、私たちの生活を支える構造物の多くが、この職種の技術によって造られています。

構造物鉄工は総合格闘技!?

鉄を扱うのは、硬派なイメージがあるかもしれません。でも実は、繊細さと美しさを追求する、ものづくりの“アーティスト”でもあります。構造物鉄工は、技術と感性をあわせ持った、鋼（はがね）の大工ともいわれている職種です。構造物鉄工の競技は、陸上の10種競技の様に、一つの技能だけで競うのではなく、溶接・板金・組立など、寸法精度はもちろん、見た目の美しさや摺動部の滑らかさなど、金属加工の多くの要素を取り入れた、ものづくりの総合的な技能を求められる職種です。鉄をも溶かす熱い気持ちを持った芸術家のような選手達の姿を、長野松本競技会場から発信します。是非ご覧いただきたい！

望月 孝則 主査　近畿職業能力開発大学校



前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：三菱重工業株式会社　高砂製作所］

山越 空斗 さん

「技能五輪」っていうのは、大人になって、こんなに本気になって物事に取り組むことがあまりないかなと思うんですけど、すごくいい経験になると思うので皆さんもぜひ頑張ってください！



前回大会金メダリストインタビュー！